

デーリー東北  
2024年(令和6年)6月19日(水曜日) (1)

# 地下飲食街 リニューアル

## 新規10店、28日オープン

### 八戸・ヴィアノヴァ

八戸市十三日町の複合商業施設「ヴィアノヴァ」を運営するリオ・コンサルティング(東京)は18日、地下街を28日にリニューアルオープンすると発表した。新たな愛称を「NOMINOVA(のみのば)」とし、飲食10店がそろって新規出店する。十三日町では向かいの旧チーノはちのへの再開発も本格化し、街区が再びにぎわいを取り戻す契機になるか注目が集まる。(出川しのぶ)

### 新愛称「NOMINOVA」

地下街は全部で11のテナント区画あつたが、新型コロナウイルスの影響による撤退で、現在は2店のみになっていた。今回、改修したのはメインストリートの国道340号側、貸し床面積の4割ほどで、3区画から10区画に再編した。

当初は4月のオープンを目指していたが、資材高騰により工事費の見直しが必要になり、ずれ込んだ。愛称は従来の「グルメモール」から変更。地元客や観光客、ビジネス客が気軽に集まり、地域の魅力を再発見できる「呑みの場」がコンセプトで、市民に浸透しているヴィアノヴァの名前と掛け合わせた。

入居する店は焼き肉や和食、無国籍料理など多彩で、「焼肉ホルモンたけ田」は東北地方では仙台に続き2店目の進出となる。他は地元事業者の出店で、みろく横丁からの移転や新規開業、2店舗目の展開など。

オープン準備が進む内装では、八戸工業大感性デザイン学科の学生が郷土芸能えんぶりのアートを制作中。NOMINOVAのロゴマークもえんぶりの烏帽子をモチーフにしている。

テナント事業の窓口となるグループ会社リオ・ソリューション(同)仙台支社の三浦周平課長は取材に、一周辺にはホテルがあり、みろく横丁に次ぐ中心街の観光スポット、八戸の豊かな食文化を体験してもらおう場にした。下火になってくる十三日町の復活の一助になればと話した。



リニューアルオープンに向けて準備が進むヴィアノヴァ地下街18日、八戸市

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。